



取組みの主な進捗状況

生活のDX

「永平寺町版空き家メタバンク」を公開



永平寺町では、全国で初めて生成AIを使って空き家をリフォームした後のイメージ画像を作成し、利活用の促進につなげる実証事業「永平寺町版空き家メタバンク」を開始しました。

県内では空き家の数が20年前から倍増し、放置や状態の悪化などが課題となるなか、リフォーム後の具体的なイメージを持ってもらうことで、空き家の活用を促進していきます。

空き家メタバンク

県立図書館「電子書籍サービス」を開始

福井県立図書館では、7月15日から電子書籍サービスを始めました。電子書籍は、自分のPCやスマホなどから利用できます。利用の際には、図書館の利用者登録・パスワードが必要となりますが、オンラインで申請が可能です。

図書館に行かなくても、デジタルを活用して読書の機会が増えるよう、利便性向上を図ります。



電子書籍サービス開始！

産業のDX

AI食ガイド「HASHI-GO」の実証を開始



株式会社ぼんたおよびライオンエンタープライズ合同会社では、公益財団法人ふくい産業支援センターの支援のもと、AI食ガイド「HASHI-GO」の実証実験を5月より開始しました。

スマホで店舗に設置されているQRコードをスキャンし、メニューや料理を撮影するだけで、自動で多言語翻訳や料理の情報（アレルギー、原材料、カロリーなど）が表示されます。

福井を訪れる外国人旅行者が安心して食事を楽しめる仕組みの構築を目指します。

デジタル観光マップで高浜町の魅力発信

高浜町では、海や山で楽しめるスポットをイラストで案内するデジタル観光マップ「若狭たかはま観光まっぷ」を6月より公開しています。

マップでは、町内の観光地やグルメ・宿泊施設などが表示されるほか、イベント情報も掲載しています。また、インバウンド向けに英語にも対応しています。

デジタル観光マップで高浜町の魅力を広く発信していきます。



行政のDX

「福井県プッシュ型行政推進協議会」を設立



県および県内17市町で構成する「福井県プッシュ型行政推進協議会」を4月に設立しました。協議会では、県民の属性や興味関心に合わせて適切なタイミングで情報を発信するプッシュ型行政の実現と、住民ニーズにあったデジタルサービスの提供について検討を進めます。

電子回覧板アプリの実証実験

福井市では、市内全域で統一の電子回覧板システムを来年初頭に導入する予定です。

福井市社北地区では、自治会向けの電子回覧板アプリの実証実験に参加しており、6月にアプリを活用した災害時の安否確認訓練を初めて実施しました。

電子回覧板を活用することで、情報伝達の迅速化や自治会運営の負担軽減を目指します。



最近の県内の動き

県庁デジタル女子部が発足

県では、女性職員のデジタルスキル向上と業務効率化を目的とした新たな取組みとして、「県庁デジタル女子部」を発足しました。

「仕事とプライベートで何かと忙しい女性職員が、日々の業務を少しでも楽にできるようなプチDXを積み重ねる機会の提供」をコンセプトに、6月にキックオフイベントを開催しました。

デジタルを活用した庁内の業務効率化を推進していきます。



はぴコインの民間利用が拡大

デジタル地域通貨「ふくい はぴコイン」は、県や市町の事業だけでなく、民間においても利用が可能です。

(株)東洋染工では、社員の業務改善提案に対してはぴコインを付与する取組みを民間企業で初めて開始しました。

また、6月にはショッピングセンター「エルパ」と連携したキャンペーンが実施されるなど、はぴコインの民間での活用が広がっています。



今後も民間キャンペーンを幅広く展開するなど、利用者がお得感をもって利用しているなど、官民が連携して取り組んでいきます。

「地域DX推進に向けたフォーラム」を開催

自治体職員を対象とした総務省主催の「地域DX推進に向けたフォーラム」が7月、全国で初めて福井市で開催され、全国から約80人が参加しました。

フォーラムでは、デジタル人材確保・育成に関する国の支援制度が紹介されたほか、地域DXを進める上での課題や各自治体の取組みについて参加者が議論を交わしました。



デジタル技術を活用した自治体業務の効率化と住民の利便性向上を目指し、国や県・市町が連携して地域DXを推進していきます。